

事業名	県南養殖漁場底質環境調査
予算区分	県単
事業実施期間	(継続事業)
担当者	(環境増養殖担当) 朝田健斗・岡本裕太・池脇義弘・棚田教生
共同研究機関等	

<目的>

魚類養殖に伴う残餌や糞等の排出物(有機物負荷)は水中で分解し、一部は海水交換によって漁場外に流出するが、一部は沈降し、海底に堆積する。本調査は、魚類養殖漁場の底質を調べることによって、有機物負荷の程度を把握し、魚類養殖の効率的な経営に資することを目的とする。

<方法>

県南5ヶ所(図1-1~4)の湾内養殖漁場において、10月にエクスマンバージ採泥器で採泥し、外観を観察した後、試泥を水産研究課に持ち帰り、表層泥の全硫化物、COD、及び強熱減量を分析した(表1)。

<結果及び考察>

全硫化物については、水床湾では平年どおり、橘湾、椿泊湾、浅川湾及び那佐湾では平年よりやや低めであった。

CODについては、水床湾では平年どおり、橘湾、椿泊湾、浅川湾及び那佐湾では平年よりやや高めであった。

強熱減量については、浅川湾では平年よりやや高め、橘湾、椿泊湾、那佐湾及び水床湾では平年よりやや低めであった。

橘湾、椿泊湾及び浅川湾の一部の調査地点においてCODが水産用水基準(20mg/g乾泥)をやや超過しているが、その他の項目は基準以下であり、漁場環境は概ね良好である。

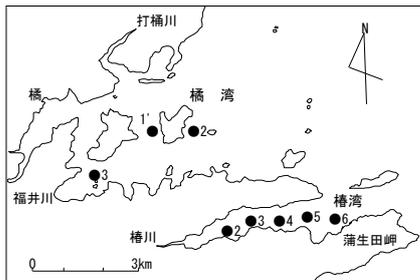


図1 - 1 橘・椿泊湾調査点

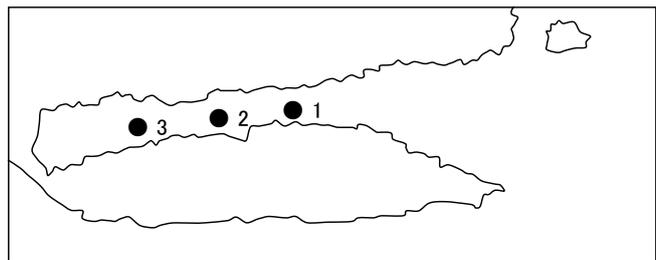


図1 - 3 那佐湾調査点

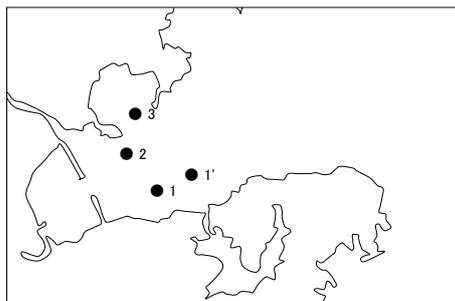


図1 - 2 浅川湾調査点



図1 - 4 水床湾調査点

表1 . 県南養殖漁場底質環境調査結果

調査地点	年月日	地点	調査時刻	水深 (m)	泥温 (°C)	乾泥率 (%)	全硫化物 (Smg/g乾泥)	COD (O2mg/g乾泥)	強熱減量 (550°C・%)	底質の性状					
										外観	浮泥層厚 (mm)	色		臭気	粘性
												浮泥	浮泥以外		
橋湾	令和5年10月19日	1'	9:58	9.0	23.4	55.8	0.04	14.80	4.3	淡褐	0.3	淡褐	灰黒	不明	中
		2	10:11	16.8	23.5	36.5	0.16	25.43	6.3	淡褐	2	淡褐	灰黒	その他	大
		3	9:45	11.0	23.8	41.5	0.12	25.72	6.8	淡褐	0.3	淡褐	灰	不明	大
椿泊湾	令和5年10月19日	2	8:40	8.1	22.7	50.2	0.07	30.16	6.0	泥砂	0.1	茶	灰	不明	中
		3	8:52	13.0	23.4	45.8	0.05	21.55	5.4	泥砂	1	茶	灰	その他	中
		4	9:00	18.8	23.4	34.4	0.27	38.11	7.8	泥砂	1	茶	灰	不明	中
		5	9:08	21.5	23.3	37.2	0.22	31.51	7.2	泥砂	0.5	茶	灰	その他	大
浅川湾	令和5年10月30日	6	9:17	23.2	23.3	33.6	0.20	30.47	7.3	泥砂	0.5	茶	灰	不明	中
		1	9:12	7.5	22.5	61.7	0.08	24.56	6.7	泥砂	0.5	淡褐	灰	不明	中
		1'	9:20	8.4	22.2	59.7	0.29	23.60	6.6	砂泥	0.1	淡褐	灰	不明	中
那佐湾	令和5年10月30日	2	9:28	7.2	21.4	69.4	0.01	6.67	4.1	砂	0		灰	不明	中
		3	9:35	6.5	21.8	66.6	0.04	14.59	5.6	砂泥	0.2	淡褐	灰	不明	中
		1	10:20	7.5	21.5	65.0	0.01	7.66	4.3	砂泥	20	茶	灰	不明	小
水床湾	令和5年10月30日	2	10:27	4.4	21.9	75.7	0.01	3.93	1.7	砂泥	0.5	茶	灰	不明	小
		3	10:34	2.6	21.5	73.3	0.01	7.79	2.5	砂泥	15	淡褐	灰	不明	中
		1	11:44	7.1	25.0	66.9	0.04	5.05	3.1	砂	0		淡褐	不明	小
水床湾	令和5年10月30日	2	11:50	4.1	24.0	69.0	0.02	5.50	1.3	砂	0		灰	不明	小
		2'	12:05	3.7	24.0	70.2	0.02	2.44	2.8	砂礫	0		灰	不明	小

< 今後の課題 >

特になし。

< 次年度の計画 >

継続する。

< 結果の発表・活用状況等 >

特になし。